

平成 25 年度物部川清流保全推進協議会合同部会 要旨

日 時： 平成 25 年 3 月 17 日（月） 14：00～16：00

場 所： のいちふれあいセンター 2 階研修室

○内容

（１）物部川濁水対策検討会の検討状況について（報告）

- ・ 県河川課より、物部川濁水対策検討会（以下「検討会」という。）の取組みについて、平成 25 年における濁水とその対策の状況、及び永瀬ダムにおける耐震性能の確認結果が報告された。
- ・ 主な意見は以下のとおり。
- ・ ダム湖内での改善努力とあわせて、発生源から抑える努力も必要だと感じる。
- ・ 別府峡温泉前以外にも土砂が埋塞している箇所があるので、濁水の発生源を確認する際には調査をお願いしたい。
→発生源の確認については、出来れば地元からも情報提供をお願いしたい。
- ・ 上流部にある砂防堰堤にも土砂が埋塞している箇所があるので、魚道を含めて当該施設の機能を果たしているかはチェックしてほしい。
- ・ 源流域では、シカの食害による下層植生の消失が土壌の流出につながり、新たな濁水源となっている。さらに、上流域の川には土砂の堆積が進行し、瀬や淵が貧弱化してしまっている。

（２）意見交換

- ・ 事務局（県環境共生課）より物部川清流保全推進協議会の今後の取組み（案）を説明し、各団体における今後の清流保全活動の取組状況や方向性と併せて意見交換を行った。
- ・ 主な意見は以下のとおり。
- ・ 以前、川から約 100m ほどのエリアを水辺林と位置付けて間伐を推進する試みを行ったが、資金面と個人情報取扱い上の制約を理由に、取組が進められなかったことがある。この二つの課題をクリアできれば水辺林の間伐は進むと思うので、当協議会でも課題を解決する方法や仕組みを話し合うといいのではないかと。
- ・ シカ問題は大きな課題と捉え、ネットやヘキサチューブなどの対策にも取り組んでいる。
- ・ 清流保全計画を策定した平成 20 年ごろと現在とでは物部川の環境は変化してきている。特に下流部では猟犬愛好家による訓練場としての利用増加や、今後サッカー場が整備される計画があるなど、河川敷の利用形態は変化し、これまでチドリ、ヒバリ、コアジサシ等の営巣地だった場所でも人の利用が増えてきている。生物多様性の観点からも河川敷の利用をゾーニングすることも考えてほしい。
- ・ 協議会の勉強会でシカ食害の現場視察を行うのはいいと思う。シカ肉を食べる時間を入れて、シカ肉の消費も考えてみてはどうか。

○まとめ（協議会副会長より）

- ・ これまでの行政の取組等についても費用や苦勞、効果といったことを集約し、お互いに実感できるように整理することで、行政に要求するだけでなく、さらに周りを巻き込んで一緒に取り組むことができるようになると思う。

以上